



平成17年基準

## 平成19年 岐阜県鉱工業指数

### 1 概況

… 生産・出荷・在庫 いずれも4年連続で上昇 …

生産指数 前年比3.1%の上昇  
 出荷指数 前年比2.1%の上昇  
 在庫指数 前年比2.4%の上昇

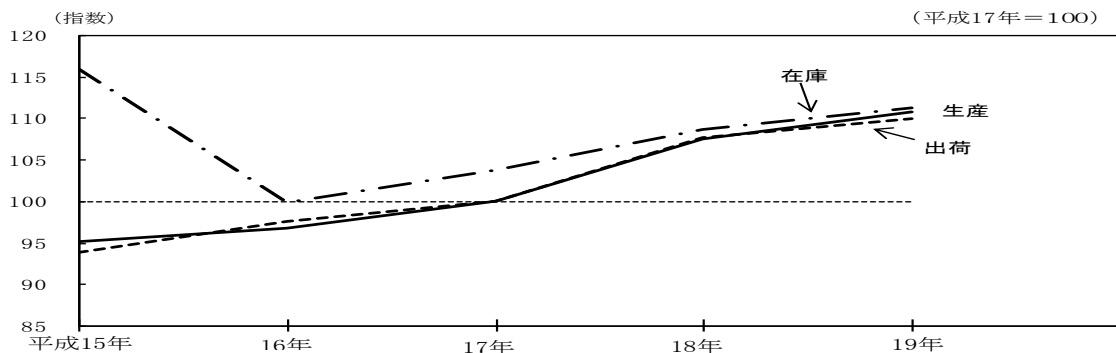
平成19年の生産指数は、繊維工業、その他工業等が低下したものの、一般機械工業、電子部品・デバイス工業等が上昇したため、前年比3.1%の上昇となった。また、出荷指数は一般機械工業、電子部品・デバイス工業等が上昇したため2.1%の上昇、在庫指数はその他工業、プラスチック製品工業等が上昇したため2.4%の上昇となった。

(図-1)

(平成17年=100)

区分	生産		出荷		在庫	
	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)
平成15年	95.2	—	93.9	—	116.0	—
16	96.8	1.7	97.7	4.0	99.8	△ 14.0
17	100.0	3.3	100.0	2.4	103.8	4.0
18	107.5	7.5	107.7	7.7	108.7	4.7
19	110.8	3.1	110.0	2.1	111.3	2.4

図-1 岐阜県鉱工業指数の推移(原指数)



注：年指数の値は、生産及び出荷指数は月指数の平均値、在庫指数は年末値による。

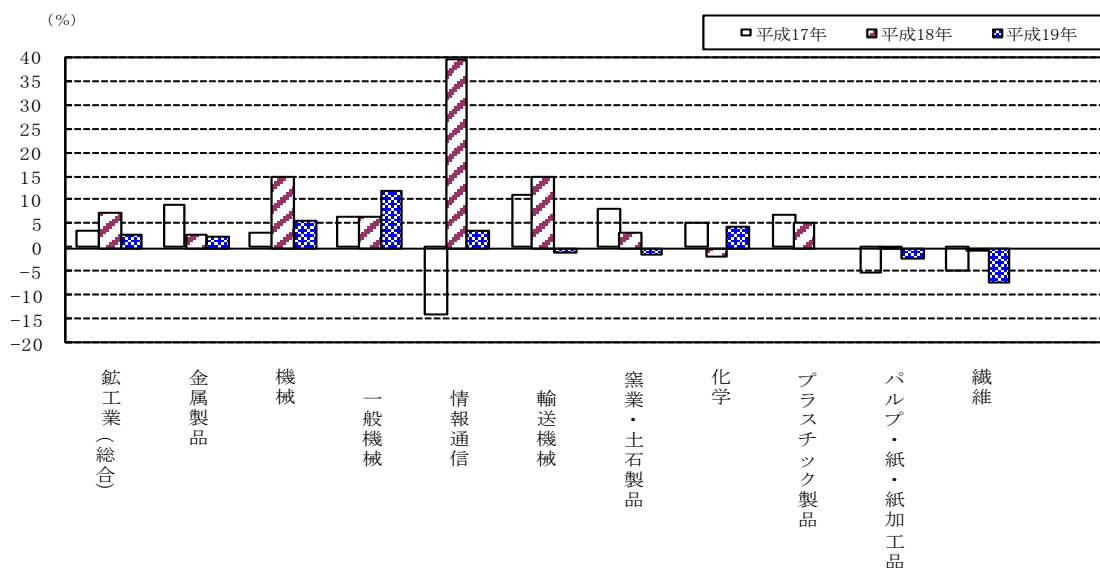
## 2 業種別生産指数の動向

主要業種別に生産指数を前年と比べると、上昇したのは一般機械工業（前年比12.3%）、化学工業（同4.5%）、情報通信機械工業（同3.7%）、金属製品工業（同2.7%）の4業種となった。

一方、低下したのは、精密機械工業（同△7.8%）、繊維工業（同△7.1%）、パルプ・紙・紙加工品工業（同△2.3%）、食料品工業（同△1.1%）、輸送機械工業（同△0.8%）の5業種となった。

また、プラスチック製品工業は横ばいとなった。（図-2、表-1）

図-2 主要業種別生産指数の前年比の推移



## 3 全国、中部との生産指数の比較

… 全国は2.8%、中部は3.1%の上昇 …

(平成17年=100)

区分	岐阜県		全国		中部	
	生産指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)	指数	前年比 (%)
平成15年	95.2	—	94.1	—	90.3	—
16	96.8	1.7	98.7	4.9	95.8	6.1
17	100.0	3.3	100.0	1.3	100.0	4.4
18	107.5	7.5	104.5	4.5	107.7	7.7
19	110.8	3.1	107.4	2.8	111.0	3.1

(表-1)

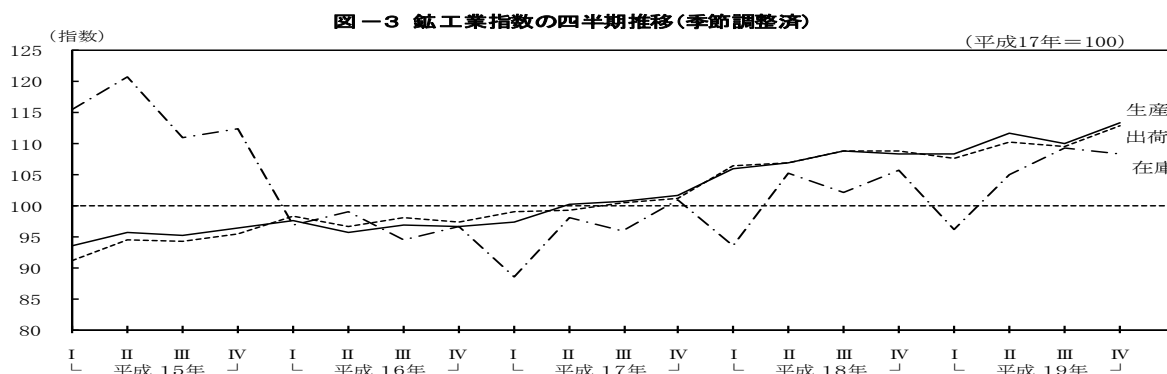
※ 「中部」とは、中部経済産業局管内5県（愛知、三重、石川、富山、岐阜）

※ 資料：経済産業省、中部経済産業局

#### 4 鋳工業指数の動き

生産指数の動きを四半期ごとにみると、低下傾向があったが緩やかに上昇に持ち直した。  
また、出荷指数の動きは上昇傾向にある。  
一方、在庫指数の動きは上昇傾向にある。

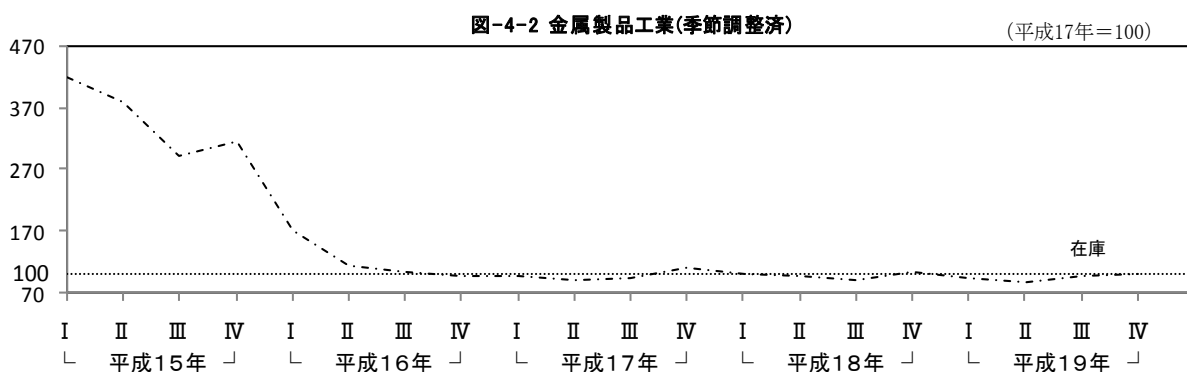
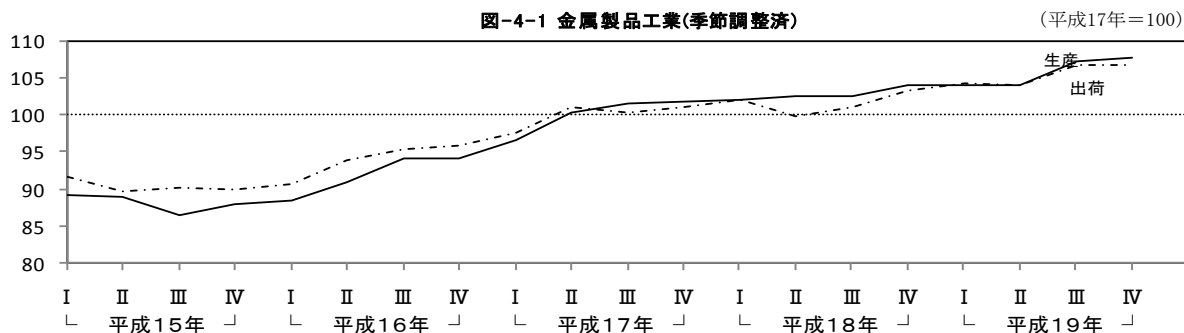
(図-3、表-1)



業種別の鋳工業指数の動きは以下のとおり

##### (1) 金属製品工業

緩やかな上昇、低下を繰り返しながら上昇傾向が続き、前年比2.7%の上昇となった。  
品目別にみると、鉄管継手、スチール又はステンレスシャッター等が減少したものの、ボルト・ナット、ばね等が増加した。  
また、出荷指数も3.7%上昇し、在庫指数は4.4%の低下となった。(図-4-1・2、表-1)

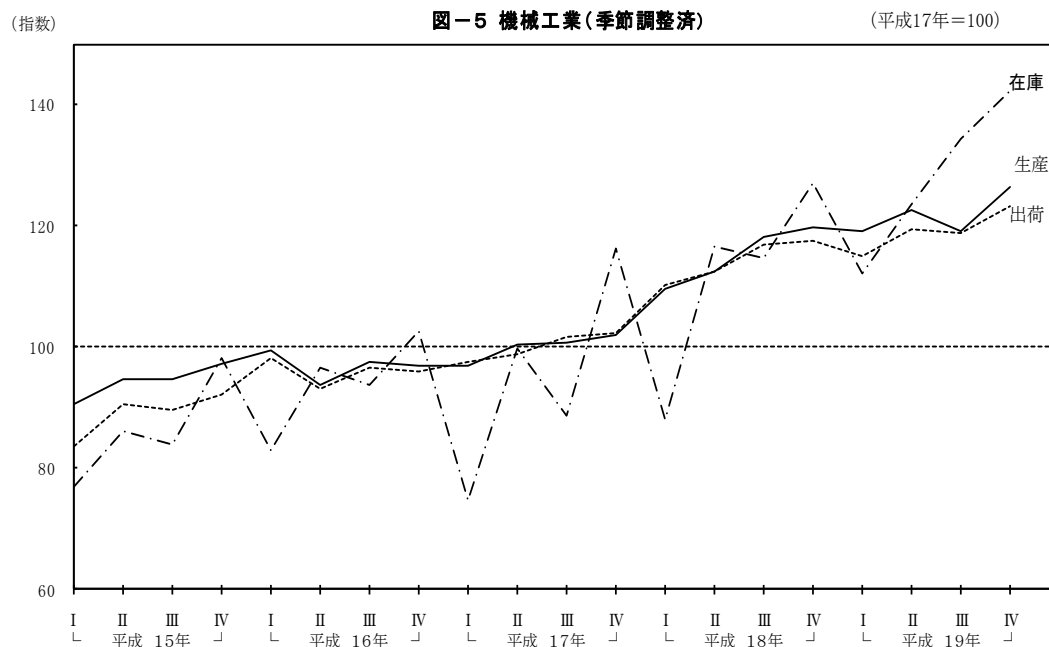


## (2) 機械工業

上昇傾向が続き、前年比12.3%の上昇となった。

また、出荷指数、在庫指数もそれぞれ4.7%、11.8%の上昇となった。

(図-5、表-1)



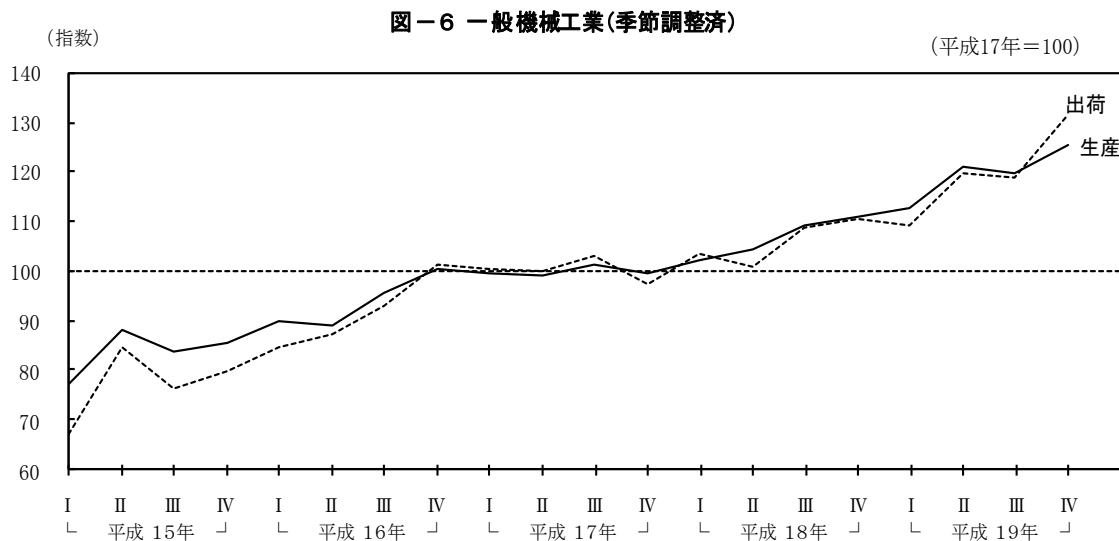
## (2) -ア 一般機械工業

上昇傾向が続き、前年比12.3%の上昇となった。

品目別にみると、金型、給排水栓類（器洗浄弁・ボールタップを含む）等が減少したものの、旋盤、油圧機器等が増加した。

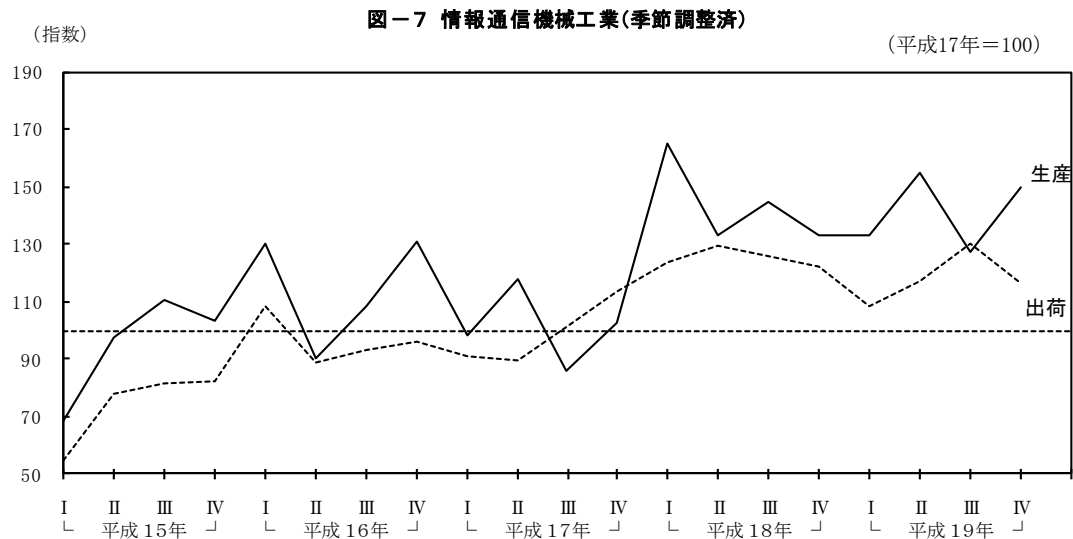
また、出荷指数も13.1%の上昇となった。

(図-6、表-1)



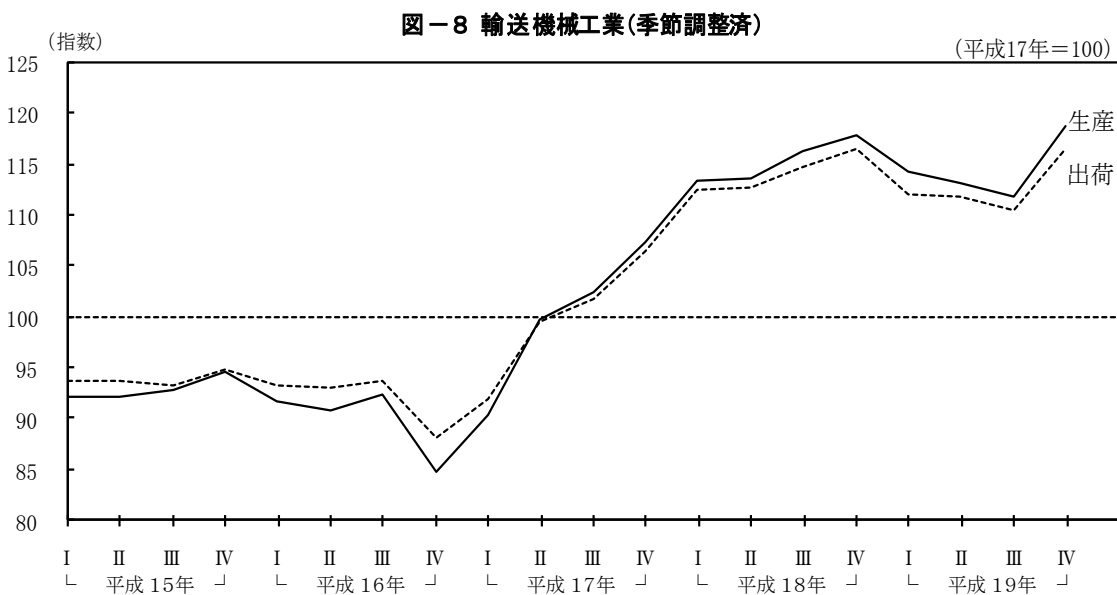
## (2) -イ 情報通信機械工業

上昇、低下を繰り返しながら推移したものの、前年比3.7%の上昇となった。  
 品目別にみると、携帯電話、デジタルカメラ等が減少したものの、プラズマテレビが増加した。  
 また、出荷指数は5.4%の低下となった。 (図-7、表-1)



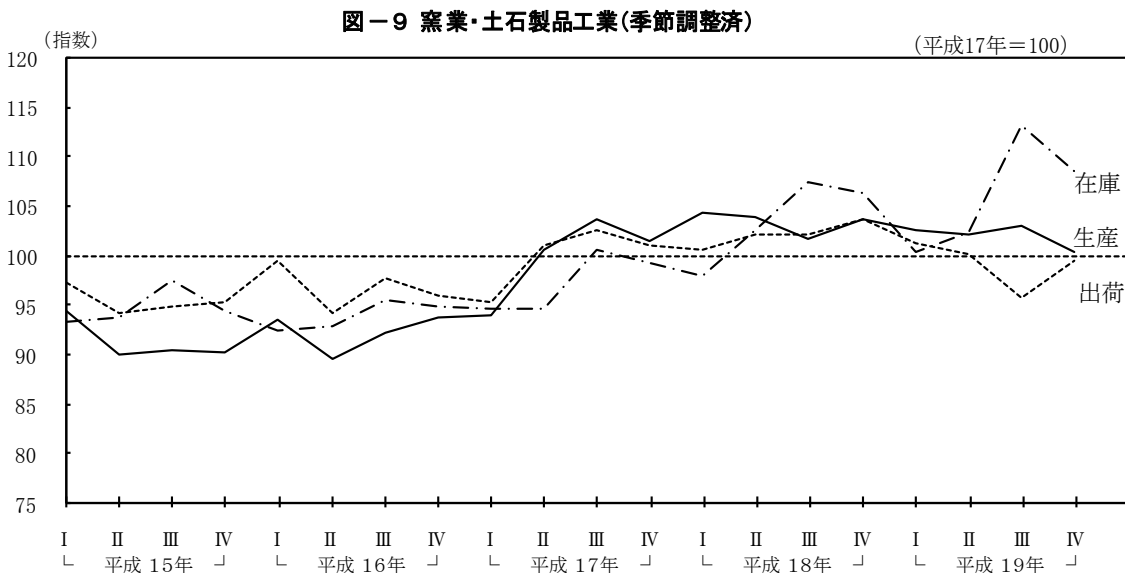
## (2) -ウ 輸送機械工業

緩やかに減少傾向が続いたものの、10~12月期に上昇傾向に転じたが、前年比0.8%の低下となった。  
 品目別にみると、乗用車ボデー、特装ボデーが増加したものの、ステアリング装置、機関部品等が減少した。  
 また、出荷指数も1.3%の低下となった。 (図-8、表-1)



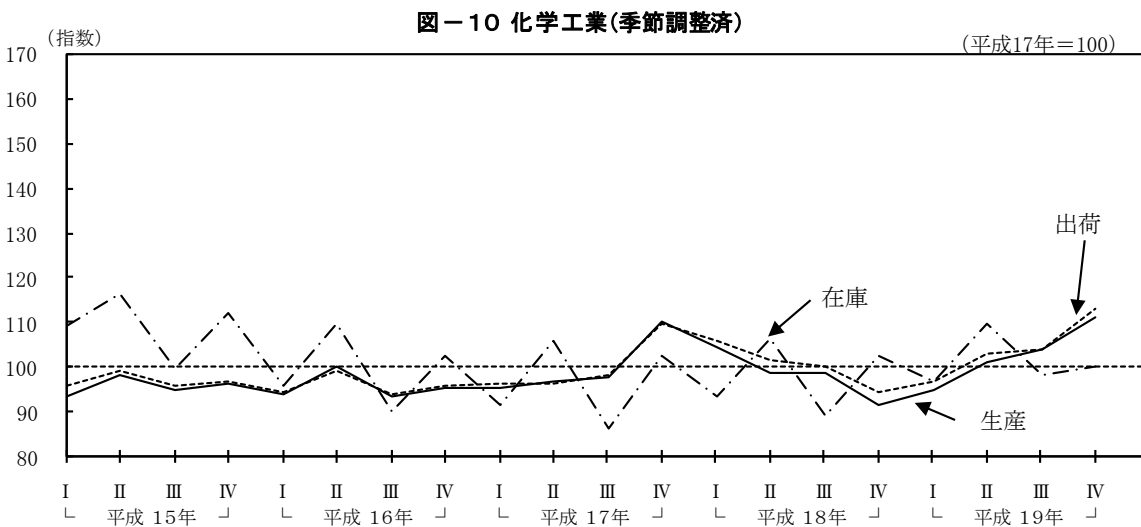
### (3) 窯業・土石製品工業

上昇、低下を繰り返しながら推移したものの、前年比1.4%の低下となった。  
 品目別にみると、触媒担体・セラミックフィルタ、研削砥石等が増加したものの、生コンクリート、タイル（陶磁器製タイル）等が減少した。  
 また、出荷指数も2.9%低下し、在庫指数は1.9%の上昇となった。（図－9、表－1）



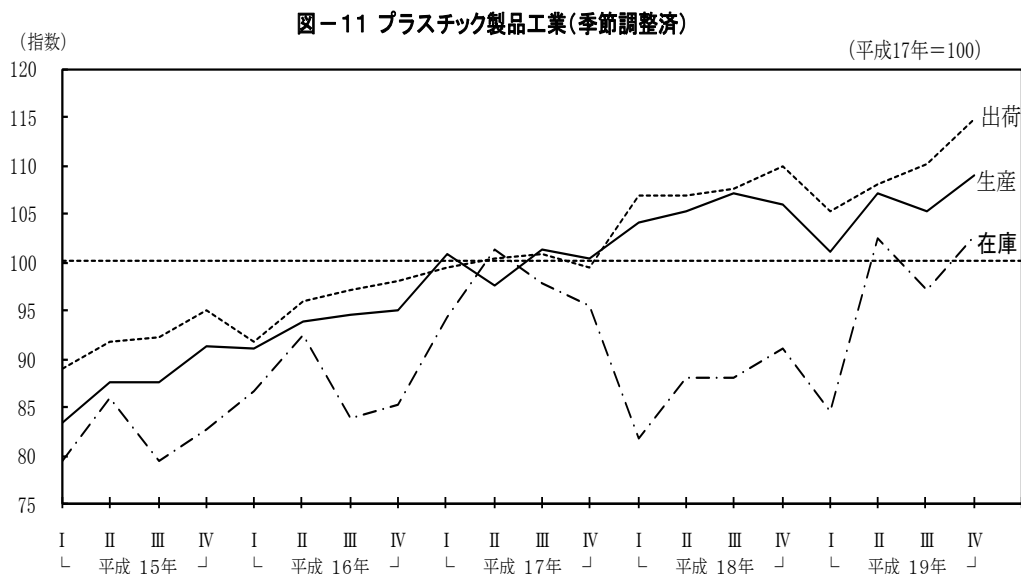
### (4) 化学工業

緩やかに上昇傾向が続き、前年比4.5%の上昇となった。  
 品目別にみると、自動車排気ガス浄化用（触媒）、活性炭等が減少したものの、医薬品、無水酢酸等が増加した。  
 また、出荷指数も3.5%上昇し、在庫指数は2.4%の低下となった。（図－10、表－1）



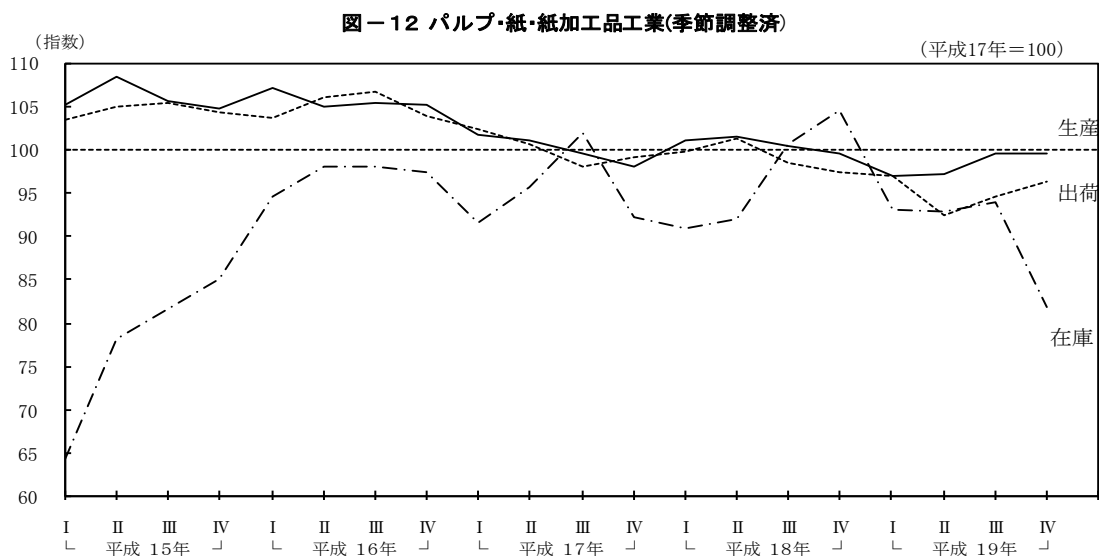
### (5) プラスチック製品工業

上昇、低下を繰り返しながら推移したものの、前年比横ばいとなった。  
 品目別にみると、プラスチック製機械器具部品、日用品・雑貨プラスチック製品等は減少し、プラスチック製フィルム、プラスチック製容器等は増加した。  
 また、出荷指数は1.6%上昇し、在庫指数も12.6%の上昇となった。(図-11、表-1)



### (6) パルプ・紙・紙加工品工業

緩やかに上昇しながら推移したものの、前年比2.3%の低下となった。  
 品目別にみると、情報用紙、包装用紙が増加したものの、特殊印刷用紙、段ボール等が減少した。  
 また、出荷指数、在庫指数もそれぞれ4.1%、21.7%の低下となった。(図-12、表-1)



## (7) 繊維工業

緩やかに低下しながら、前年比7.1%の低下となった。

品目別にみると、不織布、ニット生地染色整理等が増加したものの、織物製外衣、合成繊維織物染色整理等が減少した。

また、出荷指数、在庫指数もそれぞれ5.1%、9.3%の低下となった。(図-13、表-1)

